京城日日新聞

發行兼編輯人 鳥羽[illegible] 印刷人 [illegible] 發行所 朝鮮京城永樂町二丁目 京城日日新聞社 電話 [illegible]

第一義の提唱（上）

我等は如何に生活すべき乎

文學士 小林一郎

[illegible]

▲其處で我等の生活は如何に爲すべきか、對象を外に求むべきものか、それとも又、對象を內に置くべきものであるか、といふことに決着する。ここに於て、氣の短い人は、現實の生きんとして得ず、知己を後世に求むることも得ず、ソンな忘れツぽい世の中なら、いつその事、此世に居る間は氣隨氣儘に生きることがとくである、といふ刹那主義に走つて仕舞ふ。それは未だ人生の第一義生活がわからぬ爲めである。

……共に滿縮に歸さすことは出來ない。そこで所謂、屈原の滿節を守つて現實の世界に於ては知己を求めず死後何年かの後にこれを求めると斯う觀察する。これも最もな人生觀である。が、然し、現在人は果してこれで滿足が出來て行くかどうか。

▲私は嘗て日本歷史によりて子供時分から日本中で一番嫌ひなものは吉良上野介であつた。所が私が先年上野介の生地に行つて見て驚かされた。それは、私がこれ迄極惡非道の人間の塊と計り思つて居つた上野介が、郷里に於ては非常な有德な人として神の如く欽慕されて居るといふ事實である。荒地を開墾し治水工事をやり今日の所謂社會事業を施して大いに村の爲めに盡力したもので、同村に於て忠臣藏の芝居を持ち込む者はない。又持ち込んだりしたならば、擲り飛ばされるといふ有樣である。

▲ここに於て我等は大いに考へねばならない。知己を千載に待つといふが、果して、それが可能であるか。又、その批評そのものが正鵠を得て居るものであるか、どうかといふことである。社會が靜止して活力のないものならば、變化を生じはすまい。けれど、常に動きつゝある社會に於て、個人の日常生活に於ても、昨是今非となる例はある。後世の批評なるものにも、我等は疑問を生ぜざるを得ない。況んや、悉くが英雄たり、英雄豪傑たらざる我々の日常生活に於ては、後世の批評を對象に生活すべきものではなく、否、英雄豪傑たりとも、後世の批評によりて生活する迄では、人間としての第一義生活を爲すものではなく、蹂躪むべき心事といはなければならない。

▲卑近の例を擧げて說明を進行させやう。此處に一軒の朽ち果てた家屋があると假定する、それにいくらそれを新築の家に見せやうとして、左官やペンキ屋を入れて如何に土臺骨の朽ち果てたものを裝しても、外見は見紛ふ方なく新しいものでは、一朝、大風、大雨にあつたなら、直くその醜態を暴露するであらう。我等の日常生活もそれと同一である。我等は[illegible]ペンキ塗る前に先づその骨格を改めなければならない。

西伯利の瞥見

七 男女の關係

荒み行く露國の裏面を觀察し男女關係を述べ試んとす但し一二、露人の瞥見したるものと、其談話に依り之を綜合したるものにして一を見て十を知るに非ずして一を見て半を判斷せしものなるを以て一律に露國婦女子の慣習として世に公にする能はざるも大體に於て誤りたる點なしと信ず尼市に於ける一內地人曰く或批評家の曰く露國婦女子は色情狂に近く我々の妻たるを得ずと云ふも否らず、一、二の婦女子には或は此如くならんも斯かる例は內地遊廓の地にも其例多く何れの國の女子にも特別なるものあるべし、露國婦女子も、一、二の例外を除く外は左迄腐敗し居るものにあらず然れども有夫の婦は未婚の女子に比し貞操の念に乏しくと感ずるは事實なり」と「之を要するに露婦人は世人一部の批評する如く最近迄は比較的貞操を保持せられつゝありしも露國現況に至りては漸次人心動搖と共に婦女子の思想も昔日の如くならざる如し以下露國女子中殊も甚だしき一例を揭ぐ

女子の解放

露國は元來女尊男卑の風習にて總て婦人は男子より勢力旺盛にして其夫婦間に於けると或は交際場裏に於けるとを問はず一として然らざるはなし、日本は「女なくては夜が明けぬ國」なりと一笑するも露國は夜の明けぬのみならず實も暮れぬ國なり即ち女なくては世を送れぬ國なり來客あらんか其應接になくてならぬものは其主婦なり主として客と對話するは主人に非ずして其妻なり故に訪問客にして主婦の機嫌を損せんか紅茶の馳走すら受くること能はざるべし

露國婦女子も約二百年前迄は室內に閉じ籠り、外出する時は頭より布片を被り男子に顏を接するを嫌とせしものにして恰も現今に於ける南鮮地方の婦女子と異らざりしが「ピートル」大帝が英佛獨國に巡遊し歸國するや自國女子教育の進步せざるを遺憾とし女子教育機關を興し女子に職業を與へ又「エカテリーナ」女王に至り益々女子を解放せし結果女子教育進步し各種の職業に從事するに至るや由來衣食住は、一に夫の力に依りたる婦は內助に努めしも一旦職業を與へられ收入の途を得るや衣食住は自力に依り之を充すことを得男子にのみ依賴するの必要なきに至る一方獨立精神旺盛となり一面自己の意に適合せざる男子とは結婚せざるのみならず多數の男子に接近する爲め自然結果戀中の男子と結婚する爲め自己の夫をすら捨てゝ顧みざるに至り女子の自己享樂主義は益々旺盛となり其勢力男子を凌駕するに至り自己の欲する處如何なる方法手段を講ずるも之が貫徹を要求し男子は泣く子に地頭の譬の如く女子に逆はず其意に迎合し彼等の顏色を窺ふを常とし居りしが彼の女子の個人享樂主義は淫猥性を誘致し其結果男子を飜弄し己の不滿は去りて他の男子と同棲し曰く彼の男は私に滿足を與へざりし爲め離婚せりと公言し夫を交換し自己の情慾の滿足を得んが爲め男子を玩弄物視し敢て恥とせざるもの如く特に中流以上に於て斷然多きものゝ如し

上述の如く女子も勢力男子に優るに至りし原因とも認むべきもの一、二を例記すれば左の如し

一、女子の教育進步せしこと
二、女子が自活の途を得たること
三、女子が解放せられたること
四、法は婦人を保護すること
五、入嫁の際持參金あること
六、男子再婚以上の婦人と雖も好んで妻とすること
七、初等教育者に女子多きこと

小星

道傍に一枚の汚れた蓆を敷いて一つ四つの古ぼけた小箱の上に、三つ四つの蒸し芋を五六箇所程に分けて並べた小露店の、七八歳と見ゆる小店主は往來を眺めながら踞つたまゝ客を待つてゐた。が、其前を往き來する幾人もの人々は小露店の存在を見向きもしないのみか無造作に蹴立てる土埃をかけて通り過ぎるばかりだつた。それでも踞んだチョンガーは默つた儘で客を待つのだつた。初めの程は溫かく軟らかかつた蒸芋も何時とはなく冷く堅くなつて、土埃に汚され、果ては萎縮した老婆のやうな慘めな形になつて、薄ら寒い秋の入陽に晒される頃迄放されてゐる。かくて生きんとするものゝ小さい微弱な努力と目論は何時の結果も見せないで、再び明日と云ふ日を與へて苦しめよと運命は彼の小さき者を嘲笑ふのだ。纖弱き生命を持つ者の慘めさよ！弱き者にとりて人生は常に嫌苦殺愁の半面をのみ見せてゐる（明）

局面はどう動く？

山縣會見と政局の前途

船越光之丞男談

◇何時の內閣の時にもよくあることであるが、今度山縣公が久しぶりで入京したといふので、早くも政界の事あれがし連は、公が入京したことによりて政變到來といふ氣早いことを報道して居る。而し山縣公の今度の入京は全く天機奉伺の爲に外ならないのだ。

◇それをすぐ現政局に結びつけて何とか、これを取上げて問題にするのが政界日和見論である。大隈侯と會見する迄に策々策士が揃つてきつけたといふが、お互は昔の友達であるとすれば、そりや偶にや會ひもしやうよ。

◇だが政局は一體どう動くかといふことは見る人々によつて違つて來た。首相の方では「政變は斷じてない諸君安心せよ」と郎黨に言つた。一方反對黨の連中に「政變は今、目睫の間に迫つて居る」と云ひ觸らして居る。

◇けれど政界の下馬評くらひ當てにならぬものはない。この際政局の前途は一切不明だといふのが、一番利巧な言ひ方だらう。

◇景氣になつて憲政會が、やれ尼港問題だの、ソレ排日問題だの、思想問題だのと、次から次へと政府の方へ押し寄せるが、一向、首相の方には手ごたへがない爲め、憲政會の方では、今にも政變が來るかの如くに言ひ觸らしては居るが、それも餘り當てにはならん。

◇それは恰度、芝居見物に行つて舞臺ばかり見て居て、芝居の筋書も知らずモウ劇の幕は終つたと言つて居るやうなものだ。役者の方ではイヤさうではない。芝居はまだ濟みはしないと言つて居る。舞臺ばかり見た人の言ふのが眞實か、それとも役者のいふことが眞實か、それは誰にも分らん。

◇だがこれだけのことは言へる。「若し原首相の頭腦明晰が勝ちを制するか。それとも又張閥が勝ちを制するか。この二つによつて局面は展開する」と。

◇然りに首相の頭腦明晰がその際に打ち克つたなら、既に二百數十頭顱の爲めといふ私情に牽かされて、動きのとれないドタン／＼まで行つて、投げ出すやうなへマはやるまい。適當の時機を見計つて、適當な後任者に讓り渡し、再び政權を握るであらう。

◇若し張閥の方が勝ちを制したとすれば、西郷南洲が家の子郎黨の爲めに身を犠牲にしたやうに、どんな風潮に出會しても行詰る所まで持つて行くに違ひない。政界の晴雨計は果してどう動くか（東京支局）

創作 熱光の下を（三二）

曉谷

三日許り逗留してゐる間には、[illegible]寫生したりしてゐるうち、家を明けて出て來る時分[illegible]來たことが氣懸りになつて來た。

「[illegible]誰も訪ねて來はしまいかね、留守中に」とお前に言つた。

「何にした處で、少し早く歸りませうよ。貴郎は遠いけど、妾はお母さんに心配ですワ」

「餘り永くも居れまいネ」

二人は別々の意味で答へた。其の翌日、今までに無い足り切つたやうな、物足らぬやうな心で歸途についた。

矢張り自分の住み馴れた家は心の安定もあり、屈託もなくて、毎日カンバスを張り換ては新しい作の氣分に醉つてゐる事が出來た。然し歲を越して了つて氣が改まつて來ると、これから先の不安定な生活を果敢なむ心持ちが次第に濃密を加へて來るのだつた。新聞社の方を賴んだ寺岡の返事も要領を得ないで日が經つて行くと、生活の轉換期にあり勝ちな苛々しさが嵩つて、賴まれた繪も自然手を附けずに了ふ事が多くなつた。

「大通の方は何うなつたらうね」

或日、思ひ出したやうに言つたのが、あれこれと思ひあぐねた末のことだつた。

「貴郎の氣が進まないものだから、あれつきりですワ。何とか言つてやつて御覽なさいましな」

「今更、言つても追附くことぢやない、假令駄目になつても貴郎の不斷行が原因だから仕方がありませんワ」と何方にした處で、一度問合はしてみやうと云ふので手紙を書いた。然し、折角今日まで築き上げた地盤を棄てて異鄉に旅立つことが、如何にも敗殘者の流轉みたいに心細くも思はれるのだつた。どうせ二重生活をするのならもつと時間の餘裕があつて、生計のために[illegible]しないでも濟むやうな生涯に向き直りたいと思つた揚句には、再び教壇に立つて子供達に繪を教へやうかとも思ひ惑つた。

さうでもして、月々決つた收入の道をつけて置けば、畫[illegible]を描いた處でお前の算用は狂ふまいと思つたからだ。さう云ふとお前も俄に晴れやかな顏になつて

「それは結構ですワ。妾も、貴郎のお心を考へると、研究をやめて生活のために安價な繪を描いて下さいとは言ひたくありませんが、人間は食はないぢや研究も出來ませんワ。獨身の時なら、幾等仙人みたいな氣になつて研究なすつても困る者はなかつたでせうが、今貴郎に打つちやられると第一困るのは妾ぢやありませんか、いつも／＼貧乏ぢや、まつたくやり切れませんからね」と云ふ。

食はないぢや研究も出來ないと云ふ事は、藝術は實生活から生れる、現實の息苦しい熱光の下をウンと堪へ忍びながら、何處までも怯まず撓まずに根強く生き拔いた中から出る、その聲、その色、その文字が始めて藝術としての尊い光りを擁へるものだと云ふ意味と全く同一であることに氣附いた。

內外電報

英政府重要通牒

[illegible]露國に重要なる通牒に接せ[illegible]

對獨賠償金問題
其影響大ならん

[illegible]條約の規定に基き獨逸より直接交涉に依りて解決する[illegible]には目下提案中の[illegible]るべしと信ぜらるゝのみな[illegible]に對する感情的處置は今[illegible]は頗る重大なるものあり而[illegible]すべしと觀測され居れり[illegible]人公となりたる財頭の個人[illegible]

獨墺合併決議成立

[illegible]合併を人民投票に依りて決[illegible]

武裝解除延期拒絕

[illegible]武裝解除延期拒絕の通牒を送[illegible]

排日を誇大に報道

[illegible]市街アパートメント置散[illegible]ン紙は引續き大活字にて右[illegible]入す夫のみならず都市の家[illegible]（[illegible]港來電）

排日促進運動開始

[illegible]後ゴムパース氏より第二[illegible]にて十一月の排日[illegible]り又加州日本人排斥協會は[illegible]排日運動促進策を講ずべしと[illegible]

國際通信豫備會議

[illegible]豫備會議第一日豫備會議を開[illegible]て是等代表委員は豫備會議[illegible]同會議は一ケ月間繼續せら[illegible]る太平洋海底線路及ヤツプ[illegible]に於ける新聞並に商用電報の[illegible]改正は今回の通信會議の結果[illegible]

ゼネバ會議と日本

[illegible]に巴里外交界に於てゼネバ[illegible]非常に多數の委員を派遣せ[illegible]力瘤を入れる所より見すれ[illegible]なるべしと思惟せられつゝ[illegible]

英對露態度峻嚴

[illegible]停止を要求せる英國の最[illegible]る態度にて臨み露國通商[illegible]べからざる事を以てせり是[illegible]（倫敦來電）

露波講和條約締結
然かも裏面の暗鬪絕えず

[illegible]講和條約を締結するこ[illegible]在る軍隊を波蘭軍との[illegible]なるにも拘らずウランゲル將[illegible]ゝあり又公報に依れば過激[illegible]以て波蘭に向け出發したるか[illegible]（倫敦來電）

過激派退却開始

[illegible]全線の退却を開始せる旨[illegible]（巴里來電）

莫斯科大革命勃發

リガ來電莫斯科に於て勞農政府に反抗すべく大革命擾騷勃發せりとの噂あり（倫敦來電）

居留民保護命令

九日琿春事件に關し政府は居留民保護命令を公布せり（北京來電）

葡國罷業無根

リスボン來電に依れば葡萄牙の同盟罷業の報は事實無根なり（巴里來電）

滿蒙文化協會

滿蒙文化協會は九日夜發會式を擧行せり（大連來電）

在留滿洲民陳情

滿洲里在留民代表者佐々木小出佐藤三氏は我國の後貝加爾撤退を耳にするや在留邦人の生命財產を保護する爲其中止を政府要路者に請願したるも遂に容れられず七月二十五日より八月八日迄に同處在留民全部は多年苦心慘憺し築上げたる總ての財產を放棄して引上ぐるの止むなきに至れり引上げに就ては官憲の深甚なる注意と援助を得たりと雖共有形無形の損害は少なからず今回雜貨商高田氏外二十三名より總損害高九十五萬四千二百十二圓十一錢の損害高內容を添付したる救濟に關する請願書を滿洲里領事館を經て外務省に提出すると共に九日憲政會加藤總裁に盡力方依頼し來れり（滿洲里來電）

豫後備行賞

陸海軍豫後備の行賞は陸軍省より內閣に進達し賞勳局にて既に二十餘日間の審査あり近く全部完了する筈なるが海軍豫後備の分も即日發表さるべしと（東京來電）

陸海軍現役
行賞は十一月

陸海軍現役の行賞は十一月一日附を以て發表せらるゝ筈なるも十一月一日附敍勳其他の關係上即日發表し能はざるより第一回は十一月中旬頃にて其の順序は第十二第七第三の各師團なりと（東京來電）

東鐵管理特權

北京政府は東清鐵道管理に關し交通部をして其特權を行はしむる命令を九日公布せり（北京來電）

山縣公動靜

山縣公は十日午前十時五分自動車を驅つて五番町の自邸を出でたるが外出と入れ違ひに長谷川元帥來訪したるも不在の爲め直に辭去したり（東京來電）

戰役行賞と授爵

十一月一日行はるべき戰役行賞は大谷太井兩將軍に對して授爵を見るべきか上原參謀總長にも亦授爵せられり（東京來電）

諸齋伯金剛山行

如水會の諸齋伯は十月十九日結束式の一週年に相當せるを以てこの記念として十一日午前十一時東京驛發朝鮮金剛山に赴く事となれり（東京來電）

國境問題解決成功

入江領事一行は十日夜寬甸縣より滿城鎭に到着せるが寬甸縣の鮮人部落は悉く不逞徒輩の巢窟にして昨年來昌城碧潼等に出動し內鮮人を殺傷せるは此方面より來たるものなり然るに支那官憲は是を取締らざるのみか暗々裡に援助し居る形跡なきにあらず然るに坂本奉天府顧問が警務平安北道長官以下數名の匪賊を捕へ寬甸縣知事に拘禁せしめたる位にて數年來兩國に橫はれる事件を入江氏は同行せる門馬昌城憲兵分隊長と共に種々交涉したる結果知事は領事の前例なき遠路の來訪を感謝すると共に頗る好意を以て應接したれば錯綜せし種々の事件も解決を見たるもの如く隨つて將來國境に於ける不逞鮮人の跋扈に對する支那官憲の取締も大に變改すべく觀測せらる一行が寬甸縣旅行中道路に沿ひたる山の頂に朝鮮人各所に見張し信號を以て我一行の行動を前哨に報じつゝありしを認め之に向つて試みに銃を擬すれば忽ちに伏して姿を隱すを常とせり寬甸縣出發の前夜獨立團諸領袖が多數の兵を引率して領事一行を途中に擊退すべしとの情報支那官憲に至りたるには其狼狽甚だしく一行が出發に際しては騎兵十數名に步兵約四十名巡警並に騎馬巡警多數を派して一行を長甸間に送護衞せしめ好意を盡せりと

セ將軍と婆團
漸次接近す

最近ダウリヤ驛に於てセ將軍とパルチザン團最高司令官ヤキモフ氏との間に交涉開始せられたり右に關しセ將軍の語る處に據ればパルチザン團の大多數は新政體を確保すべしとの條件の下に今後貝加爾軍と合併せんとするの傾向あり而してヤキモフ氏はパルチザン團の反過激的氣分はこの談判の後援的の結果を示すべしとセ將軍に語らしたりといふ既初の談判は首尾好く一段落を告げたるものゝ如く爾後セキモフ氏とウンゲルン氏と從來相反目しつゝありしことは過般の激烈なる彼等の戰鬪に依りて推測せらる今やウンゲルン氏の沒落と同時にヤキモフ氏は容易にセミヨノフ將軍と接近の途を見出し最近せられたる煽動的なる官報に依つてパ團の氣分は一變したりと云ふ

貿易概況
依然不振

九月中の貿易額は輸移出一千二百八萬餘圓輸移入一千八百八十九萬餘圓合計三千九十七萬餘圓にて前年同月に比し輸移出二百六十三萬餘圓輸移入六百九十九萬餘圓合計九百六十三萬餘圓を減少せり而して一月以降累計額は輸移出一億三千九百七十三萬餘圓輸移入一億九千三百六十一萬餘圓合計三億三千[illegible]

全鮮實業大會傍聽記
第二日

第二日目の全鮮實業大會に一寸顔を出した、午前中に五六人の各地の事情報告やら希望陳述などあつたが、昨日の議論に比し活氣が無かつた又演說者も大分聞き劣りがした、其は、昨日出た緊急動議の總督府官吏の出席要求が事實となつて現れて居なかつたので失望して一層議場の景氣が惡いやうに思はれた、午後になつて昨日の緊急動議の効能が現れたのか、水野政務總監初め數名の役人が出席した、屋秘書官も總督代理と云ふ格で傍聽に出掛て來て居つたので議場は俄に活氣付いた、演說者も大分油[illegible]

[illegible]

仁取細則改正

仁川米豆取引所より申請中なりし取引所細則改正の件は九月三十日附を以て認可せられたるが改正の要旨は第五十一條を削除し以下一條宛順次繰上げ更に附則第一條の臘を左の如く改めたるものなり但施行の日に於ける當限中限及先限の賣買證據金及受渡に付ては從前の規定に依る

辭令（十月九日附）

公立工業學校教諭 小河原弘道
任京城工業專門學校教授 叙高等官六等 保坂久松
同 成田新一郎
同 梶本釜一
木府遞信書記
任朝鮮總督府遞信事務官 叙高等官七等 李寅洙
平北龜城郡守 依願免本官 山本廣太郎
總督府遞信局技手
普通試驗委員（十一日附）

黑龍通貨改正

最近武市よりの入報によればアムール政廳は舊西伯利札と浦鹽政府新札の引換に關する布告を發したり、その引換開始は九月廿日に決定し[illegible]

鮮內客月商況

朝鮮銀行調査

滿鐵職制一部改正
六日より施行

滿鐵にては其の職制中の一部を改正し去る六日より施行せるが今其內容を聞くに從來の興業部は之を廢し其主管たりし撫順炭礦鞍山製鐵所及地質調査所に關する事項は之を總務部の管理に移し同時に外事課も同樣總務部主管となし更に電氣瓦斯作業所は地方課の所屬となせるものなり

鴨綠江水電企劃

鴨綠江水力電氣株式會社は關屋忠正牧山耕藏古城管堂津田鍛雄釘本藤次郎の諸氏創立者となり既に本年四月其筋の設立認可ありたるものなるが目下夫れ調査中にて發電所は咸鏡南道豐山郡天南面に設置し水力の取入れ放出共に鴨綠江支流に之を得落口は六百尺乃至六百二十五尺を得る計畫なり着工期は未定なるが同會社の資本金は一千萬圓也

銀行株は不勢

株式の不況續きと金利高の保合に連れ配當率低き銀行株は續落の歩狀なるが十一日東京入電は更に低落を報じ鮮銀百〇五圓同新二十八圓殖產銀行四十三圓同新十一圓に[illegible]

▲米● 內地豐作見込に依る期米の暴落に壓迫せられ期米は逐日軟調[illegible]

返還の是非と鮮鐵の將來（一）
微堂生

鮮鐵經營の問題は鮮鐵が朝鮮交通機關の一大動脈たる以上之を輕々に看過すべきに非ざるに拘らず此問題に關し具體的意見を發表する者尠きは朝鮮在住者の頭上に鮮鐵經營の良否が些の關係なしとの見解に基くにあらざるべく亦官憲の萬能を過信せる多年の宿痾によるに非ざるべきも漫然之を放擲して顧みざるは餘りに無關心たらざるなきや

鮮鐵返還問題は朝鮮總督府側の希望らしきものと滿鐵側との主張が唯漠然と其一部面を傳へらるゝに過ぎず詳細に亘り論議せられたるものを見ざるが故雙方主張の旨趣を諒解するを得ざるも滿鐵側の主張は鮮滿鐵道統一なる名目が其の全豹たるが如く推測せらる（鐵道局側の主張は[illegible]）此秋に當り私見を述べ以て社會に之が研究の端緒を與ふるは徒爾にあらざるべしと思考す[illegible]

配當率の增加を主張する

[illegible]

各派盛に暗中飛躍
仁取株主總會と重役更迭問題

來る二十日開かる可き仁川米豆取引所上半期株主總會は其時日の切迫するに從ひ京仁兩地に於ける株主中に於て盛に暗中飛躍を試むる者あり先づ革正派と稱する京城株主中の一派は過日の招待會席上に於て內示されたる役員賞與金を過大なりとして其削減を要望すると共に[illegible]

京城現株

對實業銀行問題を締結せしめ以て京仁間の實業界に自系の勇躍を試んとしつゝあれど此中の頭領古城管堂氏のみは仁取實業銀行及今回同行に於て買收と決定したる仁川倉庫との關係上、今次は自ら取締役を辭退し其後繼として[illegible]

眞に微々

[illegible]

酒造用水試驗

[illegible]（仁川）

巡查修業式擧行

[illegible]

高師試驗場變更

[illegible]

大阪便り
在阪一記者

[illegible]

社告

昨今本社に關し市中或一部に於て種々なる噂さを流布され居る模樣に候が、本社は目下組織の變更、內部の整理等に着手致居候も斷じて解散又は賣却等の企て無く何處迄も釋尾社長統裁の下に刷新經營社業の發展を企劃致居候に付四方同情の人々は此點御安心被下度候尙ほ社內刷新の結果は數日中に本紙上に於て發表可致候間是亦御諒承被下度候

京城日日新聞社

一面エキス

[illegible]

人事

[illegible]

氣象日報

氣壓は主に日本海及朝鮮に高く滿洲方面には低くして其間過稜線なして全鮮は概ね晴天にして靜穩なり明日も又本日と同樣の氣壓配置にして概ね晴天なるべし

芳賀博士送別會

[illegible]

警部補一行歸京

[illegible]

務安視察團

[illegible]

兵庫縣立農學生

[illegible]

教員團下關着

[illegible]

日語校大會參列者

[illegible]

軍司令官歸任

[illegible]

商況

株式界

[illegible]

十一日大阪入電後場

銘柄	値
大株	[illegible]
同新	[illegible]
郵船	[illegible]
商船	[illegible]
鐘紡	[illegible]
東新	[illegible]
上取	[illegible]

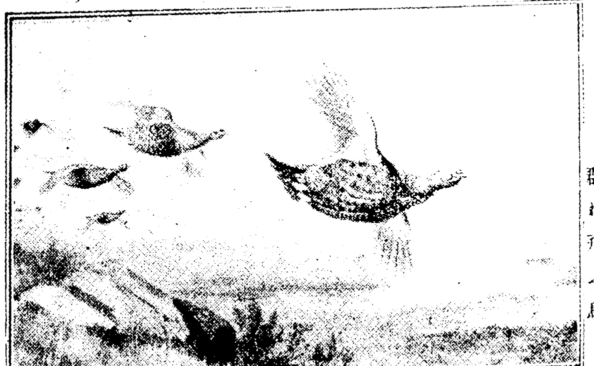
十一日東京入電前場

銘柄	値
鮮銀	[illegible]
東新	[illegible]
滿鐵	[illegible]
東拓	[illegible]
同新	[illegible]
日清	[illegible]
日糖	[illegible]

京株市場出來値（十一）

銘柄	前場	後場
京取	[illegible]	[illegible]
殖銀	[illegible]	[illegible]
東新	[illegible]	[illegible]
仁取	[illegible]	[illegible]
鮮銀	[illegible]	[illegible]
實銀	[illegible]	[illegible]
京電	[illegible]	[illegible]
瓦電	[illegible]	[illegible]
朝紡	[illegible]	[illegible]
東拓	[illegible]	[illegible]
朝皮	[illegible]	[illegible]
朝肥	[illegible]	[illegible]

出來高 [illegible]



咸興部隊士氣振ふ
琿春方面に出動か

十一日正午より當地○○○隊の○○隊内の士氣俄に緊張し嚴密裡に出動準備をなしつつあるものの如く頗る色めき渡りたるより察するに十二日拂曉出動元山より出帆琿春方面に向ふものの如し（咸興來電）

増派憲兵宇品出發
國境方面に配置さる

國境方面に於ける不逞鮮人馬賊等の跳梁に伴ひ曩に決定されてゐたる朝鮮への憲兵増派は十一日憲兵司令部では左の通り發表せり

今回朝鮮に増員せらるべき憲兵は十月中旬將校以下○○○名は○○日宇品出發朝鮮某地點に上陸し主として國境方面に配置せらるべし

國境山嶺雪既に白し
派遣軍指揮の兩少將
高阪大隊は磯林支隊に屬し進軍

國境派遣隊指揮官磯林小將は西伯利にて勇名を馳せたる人、帽山より高坂大隊は磯林將軍の指揮下に入り既に國境に向ひつゝあり間島方面は東少將之れを指揮す會寧附近の山々何れも紅葉し萬木蕭疎たり國境の山嶺には雪既に白し。

全然赤化せる賊團
機關銃や大砲を所有し
組織的に國境を窺ふ
此際徹底的に剿滅せん
と田中陸相言明す

憲政會陸軍部特別委員たる高木、箕浦三氏は九日午後三時陸相官邸に田中陸相を訪問琿春事件に關し質問したるに對し陸相は左の如く答辯したり。本月二日多數の不逞鮮人

優勢なる

支那馬賊及露人の混ぜる土匪の一團琿春にある我領事館を襲ひ居留邦人に對し殺掠事をなし爲に領事館其他三分館より至急援兵派遣を要求したるを以て

吉林工兵

明白なり

協同動作

首相と山公
酒を掬んで

義州昌原
騷擾事件
公判開廷

電氣遊園に
山縣長官歡迎
稀なる盛會

孫秉熙等公判
今十二日開廷

倫敦のゴルフ大會に
最初の日本人
鮮やかな手並を見せて
川崎肇氏の出場

近著の倫敦

帝展の
鑑査終る
振はぬ日本繪

機體も翼も
鋼鐵製
の飛行機を
米國で發明

紅燈私唱 ロマーンス

シベリヤに泣く女 (九)
ズドンと闇に響く銃聲
傷いたお園が
夜毎に聞く赤子の泣き聲

一足二足

彼の姿は

古毛布に包んで

朋輩に語る

朝鮮女教員内地視察團消息
第九信
江の島より東京へ
感ずべき日本國民

邦人の
新發展地
比類なき西伯利の大富源
漁場探險

大韓婦人會
檢擧さる
江西署に

元山暴動の首魁
張月淵通川に逮捕さる

警官の乗車廢止

優良移民表彰
東拓にて

自由戀愛の國
結婚も離婚も勝手な法令

眞夜中頃

法難記念講演

第十信
東京見學記の……
嬉しかつた朝鮮料理

東京の第一夜は明けた、五時に起床し髮を梳つて見學の支度をなし、準備が整ふてから團長並に宮崎先生に引率され李王世子御邸に上ることになつた、一同喜び勇み上るにも拘らず李王世子殿下には御目通りを得ずして歸つた、期待の裏切られたことは何とも言はれぬ遺憾であつた。それより新宿御苑及明治神宮を拜觀した、未だ工事中ではあつたが其の宏壯なる

ムルイフ

黄金館 「白菊物語」と「常闇より光へ」

三味線

或物好きの人曰く京城花柳界の七不思議と言へば太郎の枕取らずと…

三面拔萃帖

小栗判官照手姫 (九十六)

旭亭櫻山口演 鴨舟速記

道人忍術の教授

道「是れは偉い、其れ／＼其の呼吸だ、鼾をかくなよ」八「私は能く眠るのですから先生のは死んで居るので、だから枕元に立つても起きなさらない……」道「敵が起きなかつた事がある」八「あまり致しませんが、しかし先生の眠るのは死にますので……」言ひ乍らグー／＼鼾をかき始めた道人再び木劍を提げて枕元へ立ちますと、八郎はパツと兩眼を開いて、八「イヤ先生入らつしやい」道「ウム偉い、其の呼吸だ」其晩は過ぎて終ひ翌朝になる朝飯を濟ますと八「先生、枯木を取つて參ります」道「昨日拾つて來たばかりの薪に」八「又雨でも降つて生木になるといけません、有る内に澤山取つて參ります」道「其れおちやア、お出で」又背負ひを背負つて出掛けると今度は跡から道人が跟いて行つた、とも氣の付かない」八郎は枯木を拾つて背負子に積み、是れで荷物が出來たと思ふと、其處に引つ繰返つてグウ／＼高鼾で眠つて終ふ、夫を道人遠くから見て居ると合點し、彼奴晝間能く寢て夜起きて居る、其れと知らぬから此方は一生懸命起きて居る其辛さ全く堪まつたものじやアない」とやつて來て續け打ちに七ツ八ツ擲りつける、八郎吃驚して飛び起き」八「是れはどうも……」道「遂々計略露顯とは」……「痴けた奴め其んな事をしたとて何時からそれよりは左樣な計略を編まずにしかと眼を覺ますやうにせんければいかん」八「恐れ入りましてございます」實に辛い、けれども斯う致して居る事又半月ばかり、八郎も何時とはなしに、自然と體に油斷が無つて參りました道人もそれと見てか、又も膝下へ八郎を呼び寄せて」道「八郎近頃はお前も大分身體に油斷がなくなつて來て、私も嬉しい、先づ始まりに敵の寢室へ忍び込む術を教へる、是れは眠りの術を以て先づ敵を眠かして置いて然る後に其處へ這入らうといふのぢや」之を第一として白雲道人、其れより隱形變形或は五遁、水火木金土に隱れる忍術と云ふやうなものを教へる事になりました是れは横道に入つて少々恐れ入りますが、昔甲賀組の一人であつた其者が講談師となつて初代の[illegible]此人忍術を心得居つて能く人を集め、紙入などを大勢の目の前に置いて「今に此紙入が失くなるから氣を注けてお居で」さうして其座敷を出て終ふ、殘された者は紙入を眞中に置いて睨んで居る中に段々睡氣がさして參り、眠るまいと思へば愈眠くなつて來る遂々周圍の者は其處へ寢て終ふ起きた時分には紙入れが失くなつて居る、さう云ふ事を度々して見せました、けれども是れは人を眠らせる一種の藥か何か使ふといふやうな話しを聽いて居ります座敷へ入つて蝶々や蜻蛉になれる譯のものではない、壁や何かに據つて姿を隱す、之れを土遁と云ふ柱や何かに據つて姿を隱す、之れを木遁といふ、其の隱れる所の術を數へ忍び込むと云ふのは、其中に居るものが出て居る時に袂の下を潜るとか、入る時にくつ附いて居るものださうでございます、入つてから後色々な物に據つて姿を隱して居るといふ術で、其間八郎政忠の白雲道人から教へられた忍術といふも此術に進びございません、さて其跡は氣合術此氣合、といふものは心を統一しますれば出來るものでございます忍術を行ふお方は今はどうですか存じませんが、氣合術は隨分行はれて居るさうでございます

演藝案内

大正館 日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店 櫻井町 電話八七三
當る十月八日より引續き大興行
●喜劇「ゼーン飛行機」二尺
●江戸尾上松之助十八番物 俠客「夢の市郎兵衛」
寛永時代の大江戸で男の中の男一匹と謳はれ大俠客夢の浮世の市郎兵衛が生立ちより力士寺石志賀之助の危難を救ひ單身乗行城乘込み仇討ち助勢をなしたる
米國メトロ會社特作 森林情話「男の一言」全五卷
メトロの明星ハロルドロックウツト氏メイアリソン嬢共演
日活會社十大悲劇の一 故桃川若葉先生大作 後篇「生さぬ仲」全六卷
前篇を上場し京都全市の人氣を集中したる本劇は吾日活會社東京撮影部が白熱的技巧と獻身的努力とに依り愈々終局迄全部完成せり
入場料特に普通
毎月一日・十五日・日曜日・祭日晝夜開館

喜樂館 本町壹丁目 電話五九七番
當る十月八日より三大映畫提供
日本 北海アイヌの熊狩
日活 滑稽 向島派新作映畫 鉋の綬狗 長尺
新派悲劇「女魔術師」全五卷
毒婦か俠女か暗黒の魔の手に翻弄されたるヒロインが變幻出沒極りなき天馬空に行く行動は興味を惹かねば置かぬ傑作劇
米國メトロ會社特作 人情活劇「紅一點」全五卷
邪と女とは爲ることが出來ぬ神が定めた使命であらうか思へば此世は苦の世界です、光明の扉を開くべく鍵はいつの日か得られう
日活京都派一部新作封切映畫 大瓶田川乗切り 舊劇「阿部豐後守」全六卷
將軍の驕慢を直諫する苦衷の試合は反つて怒を招く基となりしが爲確執ある隅田川の乗切に千田の城に返り除き吉川御殿の暗黒を一掃して十八萬石の礎を築く武士の典型が半生の物語り
○毎日晝夜二回開館

黄金館 電話一六六三 黄金町 日活會社特約
當る十月九日より特別大興行
大阪藥種商工御披露商地藥家諸氏の御後援御寄贈品 祝景品總額金壹千圓也
壹等拾圓以上相當品。貳等七圓以上相當品。參等五圓以上相當品。其他一人樣のもれ無く景品進呈
四大寫眞上場
五味國太郎新撮影 新派時代劇「常暗ヨリ光へ」全五卷
白熱的大好評の連續寫眞 第十六篇第十七篇「名金」全四卷
前週非常な好評の 泰西社會劇「勞働者ガラオ」後篇五卷
原作者 篠山秋正 純藝術劇「白菊物語」全五卷
花柳はるみ孃。香葵光子孃。管山杉作氏出演
純映畫劇「哀の曲」「眞の藝術？純映畫劇「哀の曲」大成功なしたる國活會社は更に互費を投じ漸くに此程完成なしたる外國輸出品審判問題の名畫を改築紀念として特に上場す泉春葉。公和。古澤電業說明？吉映郎。後藤武男。尺入合奏？當地稀起名曲時に出演
○時代の要求に鑑み毎日晝夜開館

壽館 十日より東京喜歌劇團第三回公演
本町七ノ八五
第一 小櫻梅夜作 名村春操曲 喜歌劇 和會議 一場
第二 名村春操作並曲 ミユーヂカルコメデー 喜歌劇 縣の見物 二場
第三 同上 喜歌劇 石替 一場
第四 名村春操作 喜歌劇 戀の清水 一場
第五 喜歌劇 女軍出征 二場

朝鮮郵船

元山出帆 (取扱店 吉田運輸會社)		
大阪行	十月十[illegible]日	京城丸
下關行	十月十四日	濟州丸
江原道行	十月十[illegible]日	[illegible]丸
敦賀行	十月十七日	立神丸
清津行	十月十二日	立神丸
雄基行	十月十五日	會寧丸
浦潮行	十月十七日	平安丸

釜山出帆 (取扱店 大池回漕部)		
大阪行	十月十五日	濟津丸
大阪行	十月十五日	咸鏡丸
下關行	十月十七日	京城丸
新義州行	十月十七日	新義州丸
北鮮行	十月十[illegible]日	會寧丸
浦潮行	十月十七日	平安丸
濟州島行	十月十五日	全州丸
江原道行	十月十[illegible]日	慶尚丸
木浦行	十月十二日	昌平丸
濟州島行	十月十二日	[illegible]丸
新義州行	十月十[illegible]日	平壤丸

木浦出帆 (取扱店 野間回漕部)		
大阪行	十月十三日	咸鏡丸
釜山行	十月十三日	海州丸
濟州島行	十月十三日	慶興丸
多島海行	十月廿一日	公州丸
仁川行	十月十七日	全州丸
新義州行	十月十八日	咸鏡丸
橫濱行	十月廿三日	平壤丸

仁川出帆 (取扱店 郡司回漕店)		
大阪行	十月廿七日	新義州丸
大連行	十月廿一日	咸鏡丸
木浦行	十月十二日	全州丸
海州行	十月十二日	天[illegible]丸
鎮南浦行	十月十八日	順天丸
青島行	十月十四日	江原丸
新義州行	十月十五日	平壤丸

朝鮮郵船株式會社 電話一三二一番・一三二二番・一三二三番
釜山支店 電話一八四番 釜山佐藤町 電話四六四番
元山出張所 電話一〇二番 元山海岸町
京城取扱店 京城驛前 松原運送店
○當社へ滿鐵、日本郵船、大阪商船會社ト連帶運送ノ便有之候